

別相談会等による進路相談・指導、大学案内、アドミッションズポリシーおよびデータブック等の冊子、大学ホームページ等によって、情報伝達は適当に行われていると評価される。

【課題・方策】 オープンキャンパスに参加する高校生を対象としたアンケート結果などを参考に、大学の発信しているメッセージが、どの程度、高校生に伝わっているか、受け入れられているかの検証は継続的に実施する必要がある。

## 8 科目等履修生・聴講生等

### 1) 科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針

(C群:科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性)

【現状の説明】 本学学則第43条に基づき「聖学院大学科目等履修生規程」および「聖学院大学聴講生規程」が定められている。科目等履修生は卒業生などで資格取得のために、在学中に習得できなかった関連科目の単位を取得する者、あるいは、種々の理由のため退学し、その後、科目等履修生となって一定の単位を取得後、再入学を目指す者などである。聴講生は、社会人で正規の学生としての身分を持たずに大学の講義のなかで興味ある科目を聴講できる。2003年度から2006年度までの聴講者数は以下のとおりである。

科目等履修生	学 科	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
	政治経済	1	1	2	
コミュニティ政策					
欧米文化	1	1	1	2	
日本文化	2	3	2	2	
児童		5	3	3	
人間福祉	2	1	1	4	
計	6	11	9	11	

  

聴講生	学 科	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
	政治経済			1	
コミュニティ政策			1	1	
欧米文化				1	
日本文化					
児童				1	
人間福祉	1			1	
計	1	1	1	4	

【点検・評価】 学則および規程によって科目等履修生、聴講生等を受け入れていることは評価できる。外国籍の者が科目等履修生として一定以上の単位を登録すると、在留資格が認められる。在留資格を得る目的で登録し、講義に出席しない学生も過去に散見された。受け入れにあたっては、履修・聴講の目的を申請時に確認するとともに、受け入れは教授会の承認事項として、厳密に運用していることも評価できる。

## 第4章 学生の受け入れ

**【課題・方策】** 生涯教育の観点からも、科目等履修生や聴講生等の受け入れは積極的に行い、地域住民や卒業生に開かれた大学を目指す必要がある。一方、前述のように登録後、出席状況が悪い者も認められた。開かれた大学を目指すとともに、その運用が適切に行われる様な仕組みの維持が必要である。

### 9 外国人留学生の受け入れ

#### 1) 留学生受け入れ・単位認定の適切性

(C群: 留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上立った学生受け入れ・単位認定の適切性)

**【現状の説明】** 本学では、既に日本の就学ビザをもち、日本に入国している日本語学校在学学生などを入学の対象としており、原則として本国から直接留学生を受け入れることは行っていない。また、日本に在留する留学生の受け入れにあたっては、AO方式を採用している。必要とされる提出書類の有無だけでなく、エントリーカード、レポート課題、それぞれの提出時に行われる面談を通して、十分な時間をかけて、学力、資質だけでなく、提出書類のチェックをも行っている。また、編入学にあたっての単位認定については、各留学生の留学目的と学科カリキュラムとの整合性を考慮しつつ、各学科において検討することとなっている。機械的に進めるのではなく、時間をかけて編入生一人ひとりをチェックすることを心がけている。この点については、日本人と留学生についての違いはない。

留学生の学力や勉学に対する意欲には差があることは否定できない。しかし、学科によっては成績上位者を留学生が占めている事実もある。

**【点検・評価】** 留学生をAO方式で十分に面談し受け入れていること、中国や韓国だけでなく、非漢字圏の東南アジア諸国の留学生も積極的に受け入れていることは評価される。

**【課題・方策】** 本学は留学生の本国で入試選抜を行うような方式は採用していない。しかし、より優秀な学生を継続的に確保するためには、他大学の動向も参考として本国での入試選抜を行う可能性の検討やそのための情報収集を考えておく必要がある。